学位論文要旨

20 世紀後半の米国の音楽テストの評価観に関する研究

― 表現領域の評価に着目して ―

酒井　勇也

【論文構成】

序章　研究の背景と目的

第 1 節　研究の背景

第 2 節　研究対象と先行研究の検討

第 3 節　研究課題と研究の目的

第 I 部　米国の研究者たちが開発した演奏を用いたテスト

第 1 章　演奏テスト開発の系譜

第 1 節　器楽演奏の標準テスト

第 1 項　Watkins（1942）の概要

第 2 項　WFPS の概要

第 3 項　器楽演奏の標準テストの評価観

第 2 節　因子分析を用いた演奏評定尺度開発

第 1 項　CPRS 開発の背景

第 2 項　CPRS の概要

第 3 項　CPRS の信頼性と妥当性

第 4 項　Abeles 以降の因子分析による演奏評価尺度開発の展開

第 5 項　因子分析を用いた演奏評価尺度の評価観

第 2 章　表現課題による音楽的創造性テスト開発の系譜

第 1 節　Vaughan（1971）のテストの概要

第 2 節　Pfeil（1972）のテストの概要

第 3 節　Gorder（1976）のテストの概要

第 4 節　Webster（1977）のテストの概要

第 1 項　Webster（1977）のテストの課題の概要

第 2 項　Webster（1977）のテストの評価方法

第 3 項　Webster（1977）のテストの特徴

第 5 節　Wang（1985）のテストの概要

第 6 節　Vold（1986）のテストの概要

第 7 節　Webster（1987）の音楽における創造的思考の概念モデルについて

第 1 項　音楽における創造的思考の概念モデルの概要

第 2 項　可能にする技能と可能にする条件にみる Webster の能力観の特徴

第 8 節　音楽における創造的思考テスト（MCTM）について

第 1 項　MCTM の課題の概要

第 2 項　MCTM の評価方法の概要
第 3 項　MCTM の特徴
第 9 節　音楽的創造性テストの評価観

第Ⅱ部　音楽教育における創造性育成のための現代音楽プロジェクトの測定・評価に関するシンポジウム
第 3 章　「音楽教育の評価規準」に関するシンポジウム
第 1 節　「音楽教育の評価規準」に関するシンポジウムの概要
第 2 節　『現代教育音楽研究所の評価手順』の検討
第 1 項　IMCE の目的
第 2 項　IMCE のプログラムに関する調査の目的
第 3 項　IMCE のプログラムに関する調査の種類
第 4 項　IMCE のプログラムの一般的な調査手順
第 5 項　IMCE のプログラムの調査の内容
第 6 項　評価用紙
第 3 節　『現代教育音楽研究所の評価手順』にみられた評価観
第 4 章　コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの評価に関するシンポジウムと目標基準準拠テスト
第 1 節　コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの評価に関するシンポジウムの概要
第 2 節　目標基準準拠テストの概要
第 3 節　聴取テストの問題の分析
第 1 項　音楽を形作る諸要素の知覚力を問う問題
第 2 項　音楽の様式・ジャンルに関する問題
第 3 項　音楽を形作る諸要素で音楽的な感受や様式を説明する問題
第 4 項　演奏の比較・批判に関する問題
第 4 節　聴取以外のテストの問題の分析
第 1 項　音楽の様式・ジャンルに関する問題
第 2 項　楽典に関する問題
第 3 項　作曲・編曲に関する問題
第 4 項　読譜・楽曲分析に関する問題
第 5 項　情意的領域に関する問題
第 6 項　その他の問題
第 5 節　目標基準準拠テストにみられた評価観

第Ⅲ部　全米学力調査（音楽）の表現領域のテスト

第 5 章　全米学力調査（音楽）の変遷
第 6 章　全米学力調査（音楽）の表現領域のテストの変遷
第 1 節　第 1 回の表現領域のテスト
第 1 項　表現領域の目標
第 2 項　第 1 回の表現領域の問題と評価
第 2 節　第 2 回の表現領域の目標
第 3 節　第 3 回の表現領域のテスト
第 1 項　第 3 回における学力の位置づけ
第 2 項　第 3 回の表現領域の問題と評価
第 4 節　全米学力調査（音楽）の表現領域のテストの評価観

結章　研究の成果と課題

付録
文献
i.　未出版のアーカイブ資料
ii. 引用・参考文献
iii. 参考 Web 資料
iv. 関連論文

【論文概要】

序章　研究の背景と目的

演奏・創作等，音楽表現の評価については，音楽が芸術であり，テクニック・芸術性から，オーラのような言葉で言い表せない霊感まで含めた総合評価がおこなわれることが多く，古くから物議を醸しだしてきた。日本の音楽科における表現領域に関しても，同様に，音楽表現の評価の難しさが課題となっている。音楽科における歌唱・器楽・創作の表現領域では，知識や技能といった一般的に見えやすいとされる部分に関しても，ペーパーテスト等の客観的な試験問題で可視化して測定することが難しい。そのため，霧がかかっているかの如く学力全体が曖昧で見えにくい面があることが，教科の特性として大きい。音楽の専門的見識がある程度必要となることから評価に自信がもてなかったり，悩んだりする教員も多い。また，私情や先入観による評価がまかり通ってしまうという問題もあるだろう。特に，日本の小学校では音楽学習経験の乏しい全科教員が音楽の授業を担当しなくてはならない場面が多いこともあり，演奏や創作の評価に関する拠り所が求められていると考える。

現在，21 世紀型スキルと言ったことも叫ばれているように，これまでの見えやすい知識・技能を身に付けるような教育から，新しい知識を創出したりするような教育への転換期にあり，見えにくい思考力・判断力・表現力，コミュニケーション力，問題解決力，創造力など，ペーパーテストで測定することの難しい学力がより一層求められるようになってきている。当然のことながら，それに伴って，パフォーマンス評価の重要性や，評定をはじめとする客観的評価やペーパーテストの廃止を主張する動きもみられる。

以上のような音楽表現の評価の難しさや，テストそのものの是非が議論されていることを背景として，今後の日本の音楽教育における演奏や創作の指導と評価の在り方を考えていくための基礎研究が求められている。

米国で演奏・創作といった表現課題を課すテストに焦点を当てている先行研究を検討すると，まず，特定のテストを対象とした研究はみられるものの，様々なテストを並べて評価観の変遷や共通項を考察するような研究が不足しており，20 世紀後半の米国において，どのようなテストでどのような表現課題が作成されてきているのかが十分に整理されていないことが明らかである。また，当然のことながら，現在の日本の音楽科における評価の問題と関連付けて考察をおこなうような研究は少ない。

本研究では，20 世紀後半に研究者達が個人研究として開発してきた表現課題を課すテストと，全米規模のプロジェクトの中で開発された表現課題を課すテストを対象としている。

第 I 部では，20 世紀後半の米国において，研究者達が個人研究として表現領域における音楽の力を客観的に測定するためにどのような試行錯誤をしてきたのかを，演奏テストや，演奏・創作を課題として課す音楽的創造性テストの問題を整理することによって明らかにする。これらのテスト開発の試みは，必ずしも音楽科での使用を念頭におくものではなく，演奏テストと音楽的創造性テストは大きく性質を異にするものであるが，20 世紀後半における研究者達による演奏を用いたテスト開発の試みとして，第 I 部でまとめて扱う。

第Ⅱ部では，大規模な改革を試みるプロジェクトにおいてはじめて音楽科にテストを導入しようとした事例として，1960 年代後半から 1970 年代前半におこなわれた現代音楽プロジェクト（以下，CMP）における測定・評価に関するシンポジウムにおいて，どのようなテストが作成されたのかを整理し，特に演奏や創作に関連する課題に関して，その特徴を明らかにする。

第Ⅲ部では，音楽科における全米規模の学力調査として，1971 年よりおこなわれてきている全米学力調査（音楽）を対象として，演奏や創作といった表現領域のテストにおいて，みえにくい学力がどのように測定・評価されてきたのかを，表現領域における目標および公開されているテスト問題の検討を通して明らかにする。

最終的に，以上の研究の結果を総括し，米国のテストにおける表現課題に共通する特色や課題，及びこれらの実践における表現領域における評価観の相違について考察し，米国の教育界全体の変遷や現在の日本の音楽科の評価と関連付けながら，これらのテストの評価観が有する意義や表現領域の評価の有する課題について言及する。

第Ⅰ部　米国の研究者たちが開発した演奏を用いたテスト

第１章　演奏テスト開発の系譜

本章では，標準化された客観的な演奏テストとしてとりわけ広く知れ渡っている Watkins 等によって開発された器楽演奏の標準テスト（第 1 節）と，因子分析を用いた演奏評定尺度（第 2 節）を取り上げ検討した。その結果，個人研究としての演奏テスト開発に関しては，1970 年頃を境に，演奏における解釈や音質などの芸術的な質の客観的測定が不可能であるという教育測定的な考え方から，因子分析などの客観的な手順を用いて評価の観点や評価基準をうまく設定することによって，ある程度，信頼性や妥当性のある評価結果が得られるという考え方へと移ってきたことが明らかになった。

第２章　表現課題による音楽的創造性テスト開発の系譜

米国の実験的な音楽的創造性テストとしては，Vaughan（1971），Pfeil（1972），Gorder（1976），Webster（1977），Wang（1985），Vold（1986），Webster（1994）が挙げられる。本章で，7 種類の音楽的創造性テストを検討した結果，すべてのテストで流暢性に関する評価の観点が挙げられており，アイデアを短時間で流暢にたくさん出すスキルがこれらのテストでは重要視されているということが明らかとなった。また，テストによっては，柔軟性というアイデアの質の種類に対する量的評価や，この回答はあまり出てないから何点というように質を量的に処理して評価する試みがみられる点も重要な特徴であることが明らかとなった。

第Ⅱ部　音楽教育における創造性育成のための現代音楽プロジェクトの測定・評価に関するシンポジウム

第３章　「音楽教育の評価規準」に関するシンポジウム

「音楽教育の評価規準」に関するシンポジウム Symposium on “Evaluative Criteria for Music in Education” は，1967 年 5 月 25 日から 28 日にかけて，ヴァージニア州ウォレントン Warrenton のエアリー・ハウス Airlie House で開催されたシンポジウムである。本章では，本シンポジウムの結果作成された，現代教育音楽研究所 Institutes for Music in Contemporary Education（IMCE）のプログラムの効果の検証の指針を示す『現代教育音楽研究所の評価手順 Procedures for Evaluation of Institutes for Music in Contemporary Education』を検討した。その結果，「音楽教育の評価規準」に関するシンポジウムによってコンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの研究や IMCE の有効性を検証していくために必要なデータ収集を目的としてどのような調査をおこなうかの指針は示されたものの，指定校共通の評価方法や評価基準，具体的なテスト内容を示すところまでは至らなかったことが明らかとなった。

第４章　コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの評価に関するシンポジウムと目標基準準拠テスト

コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの評価に関するシンポジウムは 1971 年 6 月 10 日～12 日にか

けて，ワシントン D.C.で開催され，コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの指導の測定と評価のための客観的な基準として使うべくテスト開発がおこなわれた。13 人の教師の指導目標をもとに作成された。

これら 13 種類のテストの分析結果から，CMP では創造性の育成を掲げていたが，実際におこなわれたテストの作曲・編曲の課題のほとんどは，指定された技法等を使って作曲できる，楽譜を作ることができるといったことを目標として掲げる内容になっており，音楽的に優れた作品を作曲できるかどうか，あるいは，独創的な作品を作曲できるかどうかといった作品のよさやおもしろさ等を主観的に評価するようなものではない点が明らかとなった。

第Ⅲ部　全米学力調査（音楽）の表現領域のテスト

第 5 章　全米学力調査（音楽）の変遷

1957 年のスプートニク・ショックを背景とした教育改革の一環として，連邦政府教育長官の Francis Keppel や教育学者の Ralph Tyler，カーネギー財団の理事長で保健教育福祉長官の John Gardner などの尽力によって，1969 年から全米学力調査が開始されることとなる。本章では，第 1 回（1971 年から 1972 年）から第 5 回（2016 年）の全米学力調査（音楽）の概要を検討し，第 2 回から第 3 回にかけて，全米学力調査（音楽）が，選択肢問題や簡単な記述問題によってみえやすい客観的な知識を調査するものから，多様な自由記述問題によって思考力や知識の応用力を重点的に調査するものへと大きく変貌を遂げたことについて述べた。

第 6 章　全米学力調査（音楽）の表現領域のテストの変遷

本章で，全米学力調査（音楽）の表現領域の問題の評価事例を検討した結果，第 1 回で客観的測定が困難であると考えられてきた声質や音質，表現の面白さや魅力のような芸術的な観点が，第 3 回では演奏や創作の学力調査の評価の観点として受容されたことが明らかとなった。この背景には，客観的測定が難しい観点の評価も，詳細な評価基準の設定・採点者の綿密な訓練・採点者間信頼性の検討をおこなうことで，信頼できる結果を得ることができるようになるという，第 1 回とは根本的に異なる考え方がある。また，第 1 回と第 3 回の評価方法には，①評価の観点の細分化と，②詳細な評価基準の作成，という共通の特徴がある点についても指摘した。

結章　研究の成果と課題

本論では，米国の表現課題を課す音楽テストとして，20 世紀後半の研究者が開発した演奏テスト，音楽的創造性テスト，CMP の目標基準準拠テスト，全米学力調査（音楽）を取り上げ，その問題と評価手法に着目して，検討した。その結果，1970 年頃より，測りにくいものを排除するというような教育測定的な見方から，測りにくくても重要なものは評価しなくてはいけないというような教育評価的な見方へ評価観が移り変わってきたことが明らかとなった。そして，その評価観の移り変わりと，研究者の個人研究や大規

模なプロジェクトにおける「みえにくい学力」を少しでも信頼性・妥当性のある方法でみようとする試みが絡み合っている可能性が示唆された。一般的に米国の教育界全体の動きとして 1940 年代には教育測定運動が批判され，教育評価への転換が始まっていると捉えられていることを考えると，音楽に関しては教育界の動きを 20 年以上遅れて追従するかのように異なる評価観の変遷をたどってきたといえる。この背景に，20 世紀前半の演奏中心のカリキュラムの音楽科において，客観テストという形態があまりなじまないような芸術性や音楽性といった面に関して主観的で個人的な価値判断することがあまりに当然のことであり，客観的測定が重要視されなかったことがあると容易に推測できる。そのため，20 世紀後半という教育界全体で教育測定運動が批判されていた時代ではあるが，みえにくい部分を排して客観的な部分だけをテストで評価するような教育測定的な試みが必要となってきたのであろう。そして，1970 年代以降，綿密な手順を経てテストを作成し，みえる部分を少しでも客観的に測定することで，元々重要であるとみなされてきたみえにくい力を推測しようとすることが求められてくるようになったといえる。このように表現を客観的に数値化し測定するような取り組みが多くみられた一因として，米国は，イタリア系，ドイツ系，ヒスパニック，先住民，アフリカ系など，多様な文化やバックグラウンドをもつ人々が集まっている多民族の国家であり，人種差別や教育格差等が大きな社会問題となってきたという，日本とは大きく異なる背景の存在を指摘したい。このような背景から，音楽においても，評価に差別や偏見が反映されていないことや，人種間の教育格差等の検証の必要性が生じ，客観的に測定が容易な面での数値化が求められてきたのであろう。そういった面では，米国内でこのようなテストはある程度の役割を果たしてきたと言える。

本研究で検討した米国のテストに関しては，音楽的創造性テストを除けば，思いや意図や芸術性，云々ではなく，とにかく楽譜を正確に再現しているか，与えられた作曲技法を用いることができるか，楽譜を書けるかといったクラシック音楽に触れる際に役立つような技能の観点からの評価が非常に重要な位置を占めていた。全米学力調査において，美的感受性が最終目標として掲げられていることからも明らかなように，米国においてどのような表現をするかについて思いや意図をもっていることや価値のある表現を評価することが必ずしも軽視されていた訳ではないのだろうが，少なくとも米国の表現課題に関しては，そのような技能以外の評価が重要な位置を占めてこなかったことは明白である。この背景としては，まず米国が多民族国家であることから，文化的な価値観や感性における当たり前が通用せず，様々な理想・礼儀・価値観や意見の存在を尊重するような社会が形成されてきたことがあるだろう。このような日本とは異なる背景から，いかに早く正確に楽譜通り多くの曲を演奏できるようになるか，教えられた作曲技法を用いることができるかといった数値化しやすい技能面が，客観的に個人の意見・表現・感性・独創性等を主張するための拠り所として非常に重要視されてきたのであろう。それは，クラシック中心という枠組みの中ではあるが，ある意味，価値観・感性・表現等における個人の自由や独創性が最大限尊重されてきたということなのかもしれない。もう 1 つの理由として，CMP にみられたようなパフォーマンス自体が知であり，その行為そのものに創造性を見出すといった考え方も指摘できる。諏訪（2018）は，頭で理解・計

画するのではなく，身体が中心的な役割を担って発揮されるような「身体知」の観点から「クリエイティビティ」について解説している。彼は，身体とことばの共創がクリエイティブの源であり，身体的なこつの体得そのものもクリエイティブな学びであるという見方を提示している。また，樋口（2019）は，感性を可視化させるための「表現」に焦点をあて，いかに確かに客観的に評価するのかということが問われ数値に踊らされてしまう既存の教科教育システムを批判している。そして，世界との濃密な出会いを生む知識・技能の習得の中に，豊かな表現が現れることを示唆している（樋口 2019，pp.17-19）。CMP，諏訪，樋口等の研究をふまえると，新しい技能との出会いや体得過程そのものが「音楽表現の創意工夫」の発露として評価できる可能性や，その体得過程として，言葉・技能・音楽表現の変容を追跡していくなどといった方法の可能性が示唆される。

中にあるものを身体を通して外に出すというパフォーマンス，また外に出しながら試行錯誤を加えていく過程を評価していく際に，テストで数値化を試みるという過程を辿って詳細にみていくことで，はじめてみえてくる情報も存在するだろう。例えば，WFPS の上達表などを使えば，楽譜通りに演奏する力の向上が目に見える形でわかるという利点があるだろう。全米学力調査（音楽）の第 3 回のように詳細に観点別に演奏を分析した他者の評価言によって，自分の演奏が客観的に聴くとどのような長所や弱点があるのか，あるいは自分の意図がどの程度伝わっているのかなどの思考が促され，メタ認知を高める効果も期待できるかもしれない。いずれにしてもテストでの測定には限界があり，数値や評価そのものを目的にすることは音楽にはなじまないように思われる。テストや評価を経て得られる副産物こそが重要であることを忘れていてはならない。

【文献】

i. 未出版のアーカイブ資料

Contemporary Music Project. “Contemporary Music Project Records.” Special Collections in Performing Arts, Michell Smith Performing Arts Library, Clarice Smith Performing Arts Center, University of Maryland, College Park, MD.

ii. 引用・参考文献

Abdoo, F. B. (1980). “A Comparison of the Effects of Gestalt and Associationist Learning Theories on the Musical Development of Elementary School Beginning Wind and Percussion Instrument Students.” Ph.D. dissertation, University of Southern California.

Abeles, H. F. (1971). “An Application of the Facet-Factorial Approach to Scale Construction in the Development of Rating Scale for Clarinet Music Performance.” Ph.D. dissertation, University of Maryland.

Abeles, H. F. (1973). “A Facet-Factorial Approach to the Construction of Rating Scales to Measure Complex Behaviors.” *Journal of Educational Measurement*, Vol. 10, No. 2, pp. 145-151.

Allen, N. L. et al. (2004). *The NAEP 1997 Arts Technical Analysis Report.* Educational Testing Service.

青柳いずみこ（2016）『ショパン・コンクール』中央公論新社。

荒井克弘，倉本直樹編（2008）『全国学力調査　日米比較研究』金子書房。

安宅智子（2007）「米国音楽科教育における Comprehensive Musicianship に関する研究－I.M.C.E.プログラムの報告書を中心に－」『音楽文化教育学研究紀要』第 19 巻，pp. 95-104。

Bergee, M. J. (1987). "An Application of the Facet-Factorial Approach to Scale Construction in the Development of a Rating Scale for Euphonium and Tuba Music Performance." Ph.D. dissertation, University of Kansas.

Bess, D. M. (1988). "A History of Comprehensive Musicianship in the Contemporary Music Project's Southern Region Institutes for Music in Contemporary Education." Ph.D. dissertation, West Virginia University.

Bess, D. M. (1991). "Comprehensive Musicianship in the Contemporary Music Project's Southern Region Institutes for Music in Contemporary Education." *Journal of Research in Music Education*, Vo,39, No.2, pp.101-112.

Boyle, D. J., & Radocy, R. E. (1973). "Evaluation of instructional objectives in comprehensive musicianship." *Bulletin of the Council for Research in Music Education*, Vol.32, pp.2-21.

Butt, D. S. and Fiske, D. W. (1968). "Comparison of Stratagies in Developing Scales for Dominance." *Psychological Bulletin*, Vol. 70, pp.505-20.

Cairns, R. J. (1997). "A Test of Selected Aspects of Peter Webster's Conceptual Model of Creative Thinking in Music."M. M. Thesis, The University of Western Ontario.

Calderone, J. et al. (1997) *The NAEP Guide: A Description of the Content and Methods of the 1997 and 1998 Assessments*, National Center for Education Statistics.

Ciorba, C. R., and Smith, N. Y. (2009) "Measurement of Instrumental and Vocal Undergraduate Performance Juries Using a Multidimensional Assessment Rubric." *Journal of Research in Music Education*, Vol.57, No.1, pp.5-15.

Colwell, R. (1968a). *Music Achievement Tests 1: Adminitive and Scoring Manual*. Follett Educational Corporation.

Colwell, R. (1968b). *Music Achievement Tests 2: Adminitive and Scoring Manual*. Follett Educational Corporation.

Colwell, R. (1969). *Music Achievement Tests 3 and 4: Adminitive and Scoring Manual*. Follett Educational Corporation.

Colwell, R. (1999). "The 1997 Assessment in Music: Red Flags in the Sunset." *Arts Education Policy Review*, Vol. 100, No. 6, pp. 33-39.

Colwell, R. (2010). "Many Voices, One Goal: Practices of Large-Scale Music Assessment." In Brophy, T. (Ed.), *The Practice of Assessment in Music Education: Frameworks, Models, and Designs* (pp. 4-22). GIA Publications.

Cooksey, J. M. (1974). "An Application of the Facet-Factorial Approach to Scale Construction in the Development of a Rating Scale for High School Choral Music Performance." Ed.D. dissertation, University Of Illinois At Urbana-Champaign.

Covey, P. M. (2013). "The Ford Foundation–MENC Contemporary Music Project (1959-1973): A View of

Contemporary Music in America." Ph. D. dissertation, University of Maryland.

DCamp, C. B. (1980). "An Application of the Facet-Factorial Approach to Scale Construction in the Development of a Rating Scale for High School Band Music Performance." Ph.D. dissertation, The University of Iowa.

Farnum, S. E. (1969). *The Farnum String Scale*. Winona, MN: Hal Leonard.

Fleury, R. (1964). "Objective Measurement of Group Instrumental Music." Ed.D. dissertation, University of California.

Folts, M. L. (1973). "The Relative Effect of Two Procedures, as Followed by Flute, Clarinet, and Trumpet Students While Practicing, on the Development of Tone Quality and on Selected Performance Skills: An Experiment in Student Use of Sound-Recorded Practice Material." Ed.D. dissertation, New York University.

Gorder, W. D. (1976). "An Investigation of Divergent Production Abilities as Constructs of Musical Creativity." Ed. D. dissertation, University of Illinois.

Gordon, E. E. (1979). *Primary Measures of Music Audiation*. GIA Publications.

Gordon, E. E. (1995). *Musical Aptitude Profile, 3rd ed*. GIA Publications. Kit includes: *The Manifestation of Developmental Music Aptitude in the Audiation of "Same" and "Different" as Sound in Music* (1981), *Musical Aptitude Profile: Manual* (1995), *Predictive Validity Study of AMMA* (1990), *A Three-Year Study of the Musical Aptitude Profile* (2001), *Answer sheets*, *Class record sheets*, *Individual music cumulative records*, *Scoring masks*, *Tonal/Rhythm CD* (1995)*, and Sensitivity CD* (1995).

Gordon, E. E. (1998). *Harmonic Improvisation Readiness Record and Rhythm Improvisation Readiness Record*. GIA Publications.

グリフィン，P. ，マクゴー，B. ，ケア，E. 編／三宅なほみ監訳，荒川弘如，望月俊男編訳（2014）『21世紀型スキルー学びと評価の新たなかたちー』北大路書房。

Haley, K. A. (1999). "Watkins-Farnum Revisited: Application of the Rasch Model to Measure of Musical Performance." Ph.D. dissertation, Boston Collge.

長谷川諒（2012）「The Contemporary Music Project による Comprehensive Musicianship の概念ーノースウエスタンセミナーと IMCE に着目してー」『音楽教育史研究』第 14 号，pp.25-36。

長谷川諒（2013）「The Contemporary Music Project の収束期における活動の特質」『音楽教育学』第 43 巻第 1 号，pp.13-24。

Hayward, C. M. and Gromko, J. E. (2009). "Relationships Among Music Sight-Reading and Technical Proficiency, Spatial Visualization, and Aural Discrimination." *Journal of Research in Music Education*, Vol. 57, No.1, pp. 26-36.

Hickey, M. (1995). "Qualitative and Quantitative Relationships Between Children's Creative Musical Thinking Processes and Products." Ph. D. dissertation, Northwestern University.

Hickey, M. (2001). "An Application of Amabile's Consensual Assessment Technique for Rating the Creativity of

Children's Musical Compositions." *Journal of Research in Music Education*, Vol.49, No.3, pp.234-244.

樋口聡（2019）「感性教育論の展開(3)－表現－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第 1 部，第 68 号，pp.11-20。

Hillbrand, E. K. (1923). *Hillbrand Sight-singing Test*. NY: World Book.

Horowitz, R. A. (1994). "The Development of a Rating Scale for Jazz Guitar Improvisation Performance." Ed.D. dissertation, Columbia University Teachers College.

Jones, H. (1986). "An Application of the Facet-Factorial Approach to Scale Construction in the Development of a Rating Scale for High School Vocal Solo Performance." Ph.D. dissertation, University of Oklahoma.

梶田叡一（1994）『教育における評価の理論 I　学力観・評価観の転換』金子書房。

Keiper, S. et al. (2009). *The Nation's Report Card: Arts 2008 Music & Visual Arts*, National Center for Education Statistics.

木村信之（1968）『創造性と音楽教育』音楽之友社。

Koutsoupidou, T. and Hargreaves, D. J. (2009). "An Experimental Study of the Effects of Improvisation on the Development of Children's Creative Thinking in Music." *Psychology of Music*, Vol. 37, No. 3, pp. 251-278.

小山典子，瀧川淳（2016）「音楽科教師と音楽家における音楽指導観の比較研究」『福山市立大学教育学部研究紀要』Vol.4，pp.21-32。

Lehman, P. R. (1999). "Introduction to the Symposium on the NAEP 1997 Arts Report Card.", *Arts Education Policy Review,* Vol. 100, No. 6, pp. 12-15.

松信浩二（1998）「米国における学際的な音楽教育カリキュラム開発の研究（1）－『全米芸術教育標準』（National Standards for Arts Education）および NAEP 芸術教育評価モデルの検討を通して－」『中国四国教育学会教育学研究紀要　第 2 部』第 44 巻，pp.292-297。

マーク，M. L. ／松本ミサヲ，田畑八郎共訳（1986）『音楽教育の現代化』音楽之友社。

Menard, E. (2009). "An Investigation of Creative Potential in High School Musicians: Recognizing, Promoting, and Assessing Creative Ability through Music Composition." Ph. D.dissertation, Louisiana State University and Agricultural & Mechaical College.

Miksza, P. (2007). "An Investigation of Observed Practice Behaviors, Self-Reported Practice Habits, and the Performance Achievement of High School Wind Players." *Journal of Research in Music Education*, Vol.55, No.4, pp.359-375.

宮下俊也（1991）「音楽科における評価観の転換－客観性追求の限界と主観性導入の展望－」『音楽教育学』第 21 巻第 1 号，pp.25-34。

宮下俊也（1999）「音楽科において『みえにくい学力』をどう評価するか」『学校音楽教育研究』第 3 巻，p. 190。

森敏昭「創造性」今野喜清・新井郁男・児島邦宏編（2003）『新版学校教育辞典』教育出版，p.480。

Mosher, R. M. (1925). “Study of the Group Method of Measurement of Sightsinging.” *Music Supervisors’ Journal*, Vol.12, No.2, pp.22-28.

Music Educators National Conference (1968). “Contemporary Music Project for Creativity in Music Education.” *Music Educators Journal*, Vol. 54, No.7, pp.41-72.

Music Educators National Conference (1973). “Contemporary Music Project.” *Music Educators Journal*, Vol. 59, No. 9, pp.33-48.

長尾愛作（2000）「全米教育進度評価（NAEP）の音楽評価と今日的課題」『鳴門教育大学研究紀要　芸術編』第 15 巻，2000，pp.43-51。

National Assessment Governing Board (1994). *1997 Arts Education Assessment Framework*. U.S. Department of Education.

National Assessment Governing Board (2008). *2008 Arts Education Assessment Framework*. U.S. Department of Education

National Assessment of Educational Progress (1975). *Music Technical Report: Exercise Volume*. Education Commission of the States.

National Assessment of Educational Progress (1980a). *Music Objectives: Second Assessment*. National Institute of Education.

National Assessment of Educational Progress (1980b). *The Second Assessment of Music, 1978-79: Released Exercise Set*. National Center for Educational Statistics and National Institute of Education.

National Assessment of Educational Progress (1981). *Music 1971-79: Results from the Second National Music Assessment*. Education Commission of the States.

Nichols, J. P. (2005). “A Factor Analysis Approach to the Development of a Rating Scale for Snare Drum Performance.” Ph.D. dissertation, University of Iowa.

西園芳信監修（2009）『中学校音楽科の授業と学力育成－生成の原理による授業デザイン－』廣済堂あかつき。

Norris, E. C. and Borst, J.D. (2007). “An Examination of the Reliabilities of Two Choral Festival Adjudication Forms.” *Journal of Research in Music Education*, Vol.55, No.3, pp.237-251.

Norris, E. L. and Bowes, J. E. (Eds.) (1970). *National Assessment of Educational Progress*: *Music Objectives*. U.S. Office of Education.

Oldefendt, S. J. (1976). “Scoring Instrumental and Vocal Musical Performances.” Paper presented at the Annual Convention of the National Council Measurement in Education, San Francisco, CA. (ERIC Document Reproduction Service No. ED 129839)

Oliver, T. W. (2000). “A Comparative Study of the Methodology of the National Assessment of Educational Progress, Music Assessments 1971, 1978, and the Arts Education Assessment of 1997.” Ph.D. dissertation,

Florida State University School of Music.

Persky, H. R. et al. (1999). *The NAEP 1997 Arts Report Card* [CD-ROM]. National Center for Education Statistics.

Persky, H. et al. (2003). *Assessing the Arts: Selected NAEP Tasks and Scoring Guides for Grades 4 and 12 1997 Field Test. Dance, Music, Theatre, and Visual Arts*, National Center for Education Statistics.

Pfeil, C. I. (1972). "Creativity as an Instructional Mode for Introducing Music to Non-music Majors at the College Level." Ph. D. dissertation, Michigan State University.

Pugh, R. O. (1966). "The Band Compositions of the Contemporary Music Project for Creativity in Music Education." Ed.D. dissertation, University of Arkansas.

Richardson, C. P. (1983). "Creativity Research in Music Education: A Review." *Bulletin of the Council for Research in Music Education*, No. 74, pp.1-21.

Rivas, F. W. (1974a). *The First Music Assessment: An Overview*. Education Commission of the States, National Assessment of Educational Progress.

Rivas, F. W. (1974b). *An Assessment of Attitudes toward Music*. Education Commission of the States, National Assessment of Educational Progress.

Robblee, T. J. (2009). "Examination of the Impact of the Contemporary Music Project on Wind Band Repertoire and Performance in Oregon." Ph.D. dissertation, University of Minnesota.

Rothe, P. N. (1991). "A Survey of Some of the Theories That Have Developed in the Field of Music Aptitude Testing and Research since 1940." Ed.D. dissertation, Harvard University.

Running, D. J. (2008). "Creativity Research in Music Education: A Review (1980-2005)." *Update: Applications of Research in Music Education*, Vol. 27, pp. 41-48.

Russell, B. E. (2010). "The Development of a Guitar Performance Rating Scale Using a Facet-Factorial Approach." *Bulletin of the Council for Research in Music Education*, No. 184, pp. 21-34.

Ryan, T. G. and Brown, K. (2012). "Musical Creativity: Measures and Learning." *Journal of Elementary Education*, Vol. 22, No. 2, pp. 105-120.

Sandford, G. (1970). "Review of Objective Measurement of Group Instructional Music - R. Fleury." *Bulletin of Council for Research in Music Education* , No. 20, pp. 58-60.

笹野恵理子（1990）「『創造性の育成を目指す音楽教育』評価の理論枠組みーP. R. ウェブスターの評価構想の検討を通してー」『音楽教育学』第 19 巻第 2 号，pp.13-22。

Saunders, T. C. & Holahan, J. M. (1997). "Criteria-Specific Rating Scales in the Evaluation of High School Instrumental Performance." *Journal of Research in Music Education*, Vol. 45, No. 2, pp. 259-272.

Schallert, G. T. (2001). "A Qualitative Analysis of Selected Compositions for Band from the Young Composers and Composers in Public Schools Projects." D.A. dissertation, University of Northern Colorado.

Schmidt, C. and Sinor, J. (1986). "An Investigation of the Relationships among Music Audiation, Musical Creativity,

and Cognitive Style." *Journal of Research in Music Education*, Vol. 34, No. 3, pp. 160-173.

Seashore, C. E. (1919). *Manual of Instructions and Interpretations for Measures of Musical Talent.* Columbia Graphophone Company.

篠原秀夫（1986）「アメリカの音楽学力調査に関する一考察－日本の学力調査との比較を通して－」『音楽教育学』第 16 巻, pp. 4-15。

Silliman, T. E. (1977). "The Effect of Entrance Age on Achievement and Retention in the Beginning Band Instrument Program." Ph.D. dissertation, University of Maryland College Park.

Smith, B. P. and Barnes, G. V. (2007) "Development and Validation of an Orchestra Performance Rating Scale." *Journal of Research in Music Education*, Vol. 55, No. 3, pp. 268-280.

Stelzer T. G. (1938). "Construction, Interpretation, and Use of a Sight Reading Scale in Organ Music with an Analysis of Organ Playing into Fundamental Abilities." *Journal of Experimental Education*, Vol. 7, pp.35-43.

Stivers, J. D. (1972). "A Reliability and Validity Study of the Watkins-Farnum Performance Scale." Ed.D. dissertation, University of Illinois.

諏訪正樹（2018）『身体が生み出すクリエイティブ』筑摩書房。

筒石賢昭（1999）「アメリカ合衆国における音楽標準カリキュラム成立・実施過程の研究」平成 9・10 年度　文部省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究成果報告書, 課題番号 09680276。

苫野一徳（2019）『「学校」をつくり直す』河出書房新社。

Tsai, H. (2001). "Comparison of the NAEP Music Assessments Conducted in 1971-72, 1978-79 and 1997." M.M. thesis, Michigan State University School of Music.

Vaughan, M. M. (1971). "Music as Model and Metaphor in the Cultivation and Measurement of Creative Behavior in Children." Ed. D. dissertation, University of Georgia.

Vold, J. N. (1986). "A Study of Musical Problem Solving Behavior in Kindergarten Children and a Comparison with Other Aspects of Creative Behavior." Ph.D. dissertation, University of Alabama.

Watkins, J. G. (1942). *Objective Measurement of Instrumental Performance*. Teacher's College Bureau of Publications, Columbia University.

Watkins, J. G. and Farnum, S. E. (1954). *The Watkins-Farnum Performance Scale, Form A*. Hal Leonard Publishing.

Watkins, J. G. and Farnum, S. E. (1962). *The Watkins-Farnum Performing Scale: Form B*. Winona, MN: Hal Leonard.

Webb, R. K. (1966). "An Appraisal of the Young Composers Project." Ed.D. dissertation, University of Illinois.

Webster, P. R. (1977). "A Factor of Intellect Approach to Creative Thinking in Music." Ph. D. dissertation, University of Rochester Eastman School of Music.

Webster, P. R. (1987). "Conceptual Bases for Creative Thinking in Music." In Peery, J., Peery, I. & Draper, T.

(Eds.), *Music and Child Development* (pp. 158-174). Springer-Verlag.

Webster, P. R. (1994). *Measure of Creative Thinking in Music II (MCTM-II): Administrative Guidelines*. Unpublished manuscript, Northwestern University.

Webster, P. R. and Hickey, M. (1995). Rating Scales and Their Use in Assessing Children's Compositions." *The Quarterly Journal of Music Teaching and Learning*, Vol. 6, No. 4, pp. 28-44.

Whybrew, W. E. (1962). *Measurement and Evaluation in Music*. Dubuque, IA: WM. C. Brown Company.

Willoughby, D. P. (1970). "Institutes for Music in Contemporary Education: Their Implications for the Improvement of Undergraduate Music Curricula." Ph.D. dissertation, University of Rochester Eastman School of Music.

Willoughby, D. P. (1971a). *Comprehensive Musicianship and Undergraduate Music Curricula* (CMP6). Washington, D.C. Music Educators National Conference.

Willoughby, D. P. (1971b). "A Symposium on the Evaluation of Comprehensive Musicianship." *Music Educators Journal*, Vol.58, No.2, p.55.

薬師寺美江（1995）「音楽構成活動における児童の創造性についてーリコーダーを用いた創作学習（4 年生）の場合ー」『大阪教育大学紀要　第 V 部門』第 44 巻第 1 号，pp. 103-117。

弓野憲一編著（2005）『世界の創造性教育』ナカニシヤ出版。

Zdzinski, S. F. (1991). "Measurement of Solo Instrumental Music Performance: A Review of Literature." *Bulletin of the Council for Research in Music Education*, Vol. 109, pp. 47-58.

Zdzinski, S. F. (1993). "Relationships among Parental Involvement, Selected Student Attributes, and Learning Outcomes in Instrumental Music." Ph.D. dissertation, Indiana University.

Zdzinski, S. F. and Barnes, G. V. (2002). "Development and Validation of a String Performance Rating Scale." *Journal of Research in Music Education*, Vol. 50, pp 245-255.

iii. 参考 Web 資料

国立教育政策研究所教育課程研究センター（2010a）「特定の課題に関する調査（音楽）調査結果（小学校・中学校）」
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_ongaku/index.htm（2015/3/14 にアクセス）

国立教育政策研究所教育課程研究センター（2010b）「特定の課題に関する調査（音楽）集計結果（小学校・中学校）」
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_ongaku/index.htm（2015/3/14 にアクセス）

National Assessment Govering Board (2017). "2016 Nation's Arts Report Card Result." Internet, https://www.nationsreportcard.gov/arts_2016/#/ (accessed in 2018/04/07).

National Center for Education Statistics (1999). "NAEP 1997 Summary Data Tables." Internet, http://nces.ed.gov/nationsreportcard/tables/art1997/ (accessed in 2012/03/09).

National Center for Education Statistics (2003). “Developing an Arts Assessment: Some Selected Strategies.” Internet, http://nces.ed.gov/nationsreportcard/pubs/strategies/ (accessed in 2011/10/17).

Wang, C. (1985). *Measures of Creativity in Sound and Music*. Unpublished manuscript, Internet, http://www.uky.edu/~cecilia/MCSM/mcsm.htm (accessed in 2013/11/6).

Webster, P. R. (2002). “Creative Thinking in Music: Advancing a Model.” In Sullivan, T. & Willingham, L. (Eds.), *Creativity and Music Education* (pp.16-33). Edmonton, AB; Canadian Music Educators’ Association. Internet, http://www.peterrwebster.com/pubs/WillinghamBook.pdf (accessed in 2013/11/6).

iv. 主な関連論文

酒井勇也（2012a）「全米学力調査（NAEP）音楽試験の研究－1997 年と 2008 年の調査報告書の比較を通して－」中国四国教育学会『教育学研究紀要（CD-ROM 版）』第 57 巻，pp. 75-80。

酒井勇也（2012b）「全米学力調査音楽における評価方法の研究－1997 年のフィールドテストの報告書の検討を通して－」広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座『音楽文化教育学研究紀要』第 24 巻，pp. 81-88。

酒井勇也（2012c）「全米学力調査音楽における表現領域の問題評価方法の変遷」日本音楽教育学会『音楽教育実践ジャーナル』第 10 巻第 1 号，pp. 90-102。

酒井勇也（2013a）「Sounders & Holahan の演奏評価尺度に関する研究」中国四国教育学会『教育学研究紀要（CD-ROM 版）』第 58 巻，pp. 410-415。

酒井勇也（2013b）「初期の Facet - Factorial Approach による演奏評価尺度に関する研究－Abeles のクラリネット用演奏評価尺度を中心として－」広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座『音楽文化教育学研究紀要』第 25 巻，pp. 99-106。

酒井勇也（2013c）「全米学力調査音楽における関心・意欲・態度の評価の変遷」日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』第 36 第 3 号，pp. 27-36。

酒井勇也，渚智佳，小川純一（2014）「Webster の評価観－音楽における創造的思考力の測定・評価の試みに焦点を当てて－」音楽学習学会『音楽学習研究』第 9 巻，pp.25-36。

酒井勇也（2019）「管楽器の演奏評価に関する一考察－Watkins-Farnum Performance Scale の検討を中心に－」『宮崎大学教育学部紀要』第 92 号，pp.79-90。